

会長の挨拶 38 一職種一会員制の本質—その 5—

バーミンガム・クラブの考え方の核心、即ち、ロータリーの一職種一会員制の本質は、当該社会の実状を、ロータリーの意味において把握し、職業上の一般的倫理基準の設定と、いうことを実質的な内容とする奉仕の実効性を担保するということなのであって、シアトル・クラブが考えたように、具体的かつ個々の奉仕の個別的な実効性の確保とは、自から次元の異なる問題だということが分かるのである。

この様な立場から、ロータリーは、一職種一会員制に基づいて選任された会員のことをアクチヴ・メンバーと呼び、その一人一人がロータリアンとしての自覚に徹し、例会を通じて交換される高度の境地を自己の職場、同業者及び社会一般に唱導すべきことを倫理的に義務づけられているのである。

この様にして特定の職種についてのロータリー内部の職業分類の本質については、ロータリーが特定の会員に貸与しているのものであって、ロータリーの自覚を欠く会員からその地位を剥奪することが出来るかのように説かれているが、これは正しい解説ではあるまい。つまり、ロータリアンがその資格剥奪に足るべき行為としては、例会出席の不履行しかないのだから、積極的な活動を行わないことが、例会出席の不履行と合致しない限り、つまり職業倫理の唱導に不活発な場合には、単なる倫理的義務違反にすぎないから、資格剥奪はできないもの言うべきである。

こういう見地から考えると職業分類の貸与説には若干誤解の生じる余地があるという意味で、欠点があるといえよう。

(小堀憲助著『ロータリー思想の理論構造』より引用)